

## 平成22年度事業報告書

平成22年度の狛江市文化振興事業団の施設利用、自主事業に関し、以下のとおりをご報告いたします。

まず、中長期計画（事業実施計画）2年目における施設利用状況につきましては、ホール目標稼働率 59.5%に対し 22 年度実績は、55.1%となり達成率は 92.6%、対前年度比では 1.6%の増となりました。施設の有効活用による稼働率の向上については、中長期計画に基づき実施しており、利用率の向上が見られ成果が上がっております。また、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による事業実施予定のご利用者様には、計画停電等の説明とともに地震の影響による中止に対し施設利用料の全額還付対応といたしました。

3月の利用率については、対前年同月比でホール 28.7%減、展示・多目的室 3.4%減、リハーサル室では 31%減となり震災による大幅な利用減という結果となりました。23 年度に向けては、リピーターの確保等計画に基づき一層の稼働率向上へ努力いたします。

次に自主事業についてですが平成22年度はホール事業 19 公演（共催公演を含む）、ロビー事業 5 公演を実施いたしました。平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響により、翌 12 日に予定しておりました「クラシックバレエに親しむひととき（松山バレエ団）」公演は延期し、変更に伴う払い戻し希望のお客様には窓口、郵送での受付対応をし、また 3 月 19 日「桐朋オーケストラアカデミー パーカッション・アンサンブル」ロビー公演は中止とし、同様に払い戻しの対応をいたしました。

チケットの販売状況は長引く景気の低迷により予想以上に伸び悩みが顕著であり、鑑賞型事業では短期間で売り切れとなっていた人気の定番事業である落語も、完売になるまで時間を要しました。今期は中長期計画に基づき事業内容のジャンルが多彩、集客対象を世代別に絞り込んだことが特徴であり、シニア世代を対象に実施した「芹洋子&デュークエイセス」公演は平日昼にもかかわらず多くの集客、またワークショップを取り入れた参加事業「シエナ・ウィンド・プラス」では学生から主婦などの楽器愛好者に好評を得ました。

自主制作型事業として3事業実施しましたが、初めての試みの「オープンハウス」は集客の点では課題が残りましたが、市内音楽家や市民団体、商工関係者の大きな協力を得ることができました。また、3年目となった市内在住の音楽家による「エコルマ・アンサンブル・コンサート」では、鑑賞の手引となるよう事前に出演者によるレクチャーを開催、そして「音楽活性化事業（おんかつ）・吉岡次郎フルートリサイタル」（共催：財団法人地域創造）では、公演出演者による市内老人ホーム及び福祉作業所の計 4 か所でのアウトリーチ事業を実施しました。ロビー事業 3 公演は、ほぼ満席となり概ね好評でしたが、今後も定期的な実施によりロビー事業の認知度を高める必要があります。支援型事業に関しては、公募により 3 団体の申請に対し 1 団体の辞退がありましたが選考委員会に於いて市民団体 1 団体、新人・若手アーティスト 1 名を決定、実施しました。

23 年度は震災による影響が引き続きあるものと予想されますが、市民団体や商工関係との協働をより高め、事業を実施していきたいと考えます。